様式第二号の十三（第八条の十七の二関係）

（第１面）

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和7 年　　5 月　　16 日

都道府県知事
鳥取市長　　殿

提出者

住　所　鳥取県鳥取市湖山町北2丁目555

氏　名　医療法人社団　尾﨑病院

理事長　尾崎 舞

（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）

電話番号　　0857-28-6616

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の２第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	医療法人社団　尾﨑病院
事業場の所在地	鳥取県鳥取市湖山町北2丁目555
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	医療業
② 事業の規模	病床数：180床
③ 従業員数	290人
④ 特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	感染性廃棄物 （院内）　　（委託廃棄物処理業者） 専用箱で指定廃棄場所に保管　→　収集・運搬　→　焼却・埋立 水銀使用製品産業廃棄物 （院内）　　（委託廃棄物処理業者） 廃棄用コンテナ　→　収集・運搬　→　破砕・選別

（日本工業規格　A列４番）

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

（管理体制図）

別紙１の通り

特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

【前年度（令和　　６年度）実績】

特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	水銀使用製品
排　　出　　量	50.5　　t	0.003　　t

（これまでに実施した取組）

感染性廃棄物：院内感染を防止する事で排出量減少を図る。

水銀使用製品産業廃棄物：水銀使用製品の新規採用廃止。

②計画

【目標】

特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	水銀使用製品
排　　出　　量	49　　t	0.1　　t

（今後実施する予定の取組）

感染性廃棄物：
コロナの院内発生により排出量が増加した。発生した際、早期に終息する事で排出量減少を図る。取組みによる効果が見られるため継続する。

水銀使用製品産業廃棄物：
水銀使用製品の新規採用廃止。

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状

（分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）

排出量増加の主な要因は防護具となっている。
一般廃棄物と特別管理産業廃棄物の分別を継続して周知している。

②計画

（今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）

防護具の使用方法を見直し排出量の減少を図る。
分別に関する周知指導を継続する。

（第３面）

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（平成　　６年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	水銀使用製品
	自ら再生利用を行った 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	水銀使用製品
	自ら再生利用を行う 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組）		
自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（　　６年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	水銀使用製品
	自ら熱回収を行った 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	水銀使用製品
	自ら熱回収を行う 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組 ）		

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項			
①現状	【前年度（平成　　６年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	水銀使用製品
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	水銀使用製品
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組）		

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（平成　　６年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	水銀使用製品
	全処理委託量	50.5 t	0.003 t
	優良認定処理業者への処理委託量	50.5 t	0.003 t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	（これまでに実施した取組） 優良認定処理業者へ委託する。		

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	水銀使用製品
	全 処 理 委 託 量	49 t	0.1 t
	優良認定処理業者への処理委託量	49 t	0.1 t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	（今後実施する予定の取組） 排出量の定期的な確認を行う。		
電子情報処理組織の使用に関する事項	【前年度（平成　　６年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物 排出量 （ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。）	50.5 t	
	（今後実施する予定の取組等） 引き続き電子マニュフェストの運用を継続する。		
※事務処理欄			

備考

１　前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに１枚作成すること。

２　当該年度の６月30日までに提出すること。

３　「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。

(1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。

(2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。

(3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。

４　「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。

５　「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。

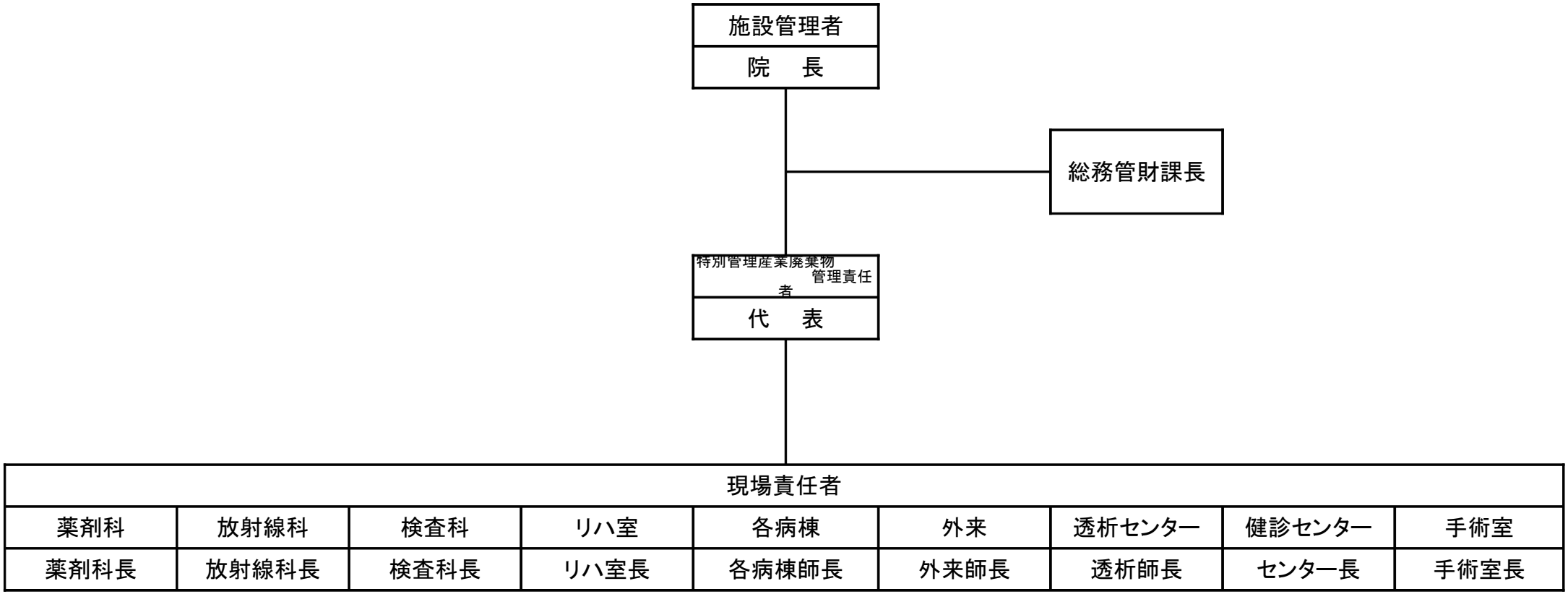
６　「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第６条の14第２号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の３の３第１項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。

７　「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第２条の４第５号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トン以上の者にあっては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第８条の31の４に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。

８　それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が３以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。

９　※欄は記入しないこと。

別紙
管理体制図


施設管理者
院　長
総務管財課長
特別管理産業廃棄物管理責任者
代　表
現場責任者
薬剤科
放射線科
検査科
リハ室
各病棟
外来
透析センター
健診センター
手術室
薬剤科長
放射線科長
検査科長
リハ室長
各病棟師長
外来師長
透析師長
センター長
手術室長